

## 船舶事故調査報告書

令和4年4月27日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

委 員 佐藤 雄 二（部会長）  
 委 員 田 村 兼 吉  
 委 員 岡 本 満喜子

事故種類	乗組員行方不明
発生日時	不明（令和2年12月17日 16時00分ごろ～18日 00時00分ごろの間）
発生場所	不明（青森県六ヶ所村東方沖～宮城県気仙沼市東方沖の間）
事故の概要	ロールオン・ロールオフ貨物船 <sup>てんおう</sup> 天王丸は、航行中、甲板手1人が落水して行方不明となった。
事故調査の経過	令和2年12月22日、本事故の調査を担当する主管調査官（仙台事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	ロールオン・ロールオフ貨物船 天王丸、13,624トン 143515、オーシャントランス株式会社 190.90m×27.00m×22.70m、鋼 ディーゼル機関、15,930kW、令和元年6月
乗組員等に関する情報	船長 47歳 二級海技士（航海） 免 許 年 月 日 平成16年8月30日 免 状 交 付 年 月 日 令和元年6月17日 免状有効期間満了日 令和6年8月29日 甲板手A 49歳
死傷者等	行方不明 1人（甲板手A）
損傷	なし
気象・海象	気象：天気 曇り、風向 西北西、風力 2～3、視界 良好 海象：波高 約1.0～1.5m、水温 約13℃
事故の経過	本船は、京浜港東京区と北海道苫小牧港間に定期就航しており、船長及び甲板手Aほか11人が乗り組み、シャーシ112台及び車両40台を積載し、令和2年12月17日10時40分ごろ苫小牧港を出港した。 甲板手Aは、12時00分ごろ北海道室蘭市東方沖で航海士及びもう1人の甲板手と共に航海当直に就いた後、16時00分ごろ六ヶ所村東方沖で航海当直を引き継いで降橋した。 航海士は、18日00時00分ごろ気仙沼市東方沖で次直の甲板手Aが昇橋して来ないので不審に思い、前直者等と共に船内を捜したも

	<p>の甲板手Aの姿が見当たらなかったため、その旨を船長に報告した。</p> <p>船長は、甲板手Aが落水したものと判断し、海上保安庁に本事故の発生を通報した。</p> <p>甲板手Aは、本船、海上保安庁の巡視船及び航空機による捜索が行われたものの発見されず、行方不明となった。</p> <p>(付図1 事故発生経過概略図 参照)</p>
その他の事項	<p>甲板手Aは、本事故の約1週間前に乗船したばかりで、本事故が2航海目に当たり、本船での業務に慣れるまでもう1人の甲板手と共に航海当直に就くなどしていた。</p> <p>本船の甲板手は、ふだん、日没から日出の間に船内巡視を行った後、昇橋して当直者に報告を行っていた。</p>
<b>分析</b> 乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象等の関与 判明した事項の解析	<p>不明</p> <p>不明</p> <p>不明</p> <p>甲板手Aは、行方不明となった。</p> <p>甲板手Aは、17日16時00分ごろ本船が六ヶ所村東方沖を航行中に航海当直を終えた後、18日00時00分ごろ本船が気仙沼市東方沖を航行中に次直として航海当直に就かなかったことから、この間において、落水したものと考えられる。</p>
<b>原因</b>	<p>本事故は、本船が六ヶ所村東方沖から気仙沼市東方沖の間を航行中、甲板手Aが落水したことにより発生したものと考えられる。</p>
<b>再発防止策</b>	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>乗組員は、航行中、必要のない限り、暴露甲板等の居住区画外に出ないことが望ましい。</li> </ul>

付図1 事故発生経過概略図

